



# 議会だより

## 任期後半の議会構成決まる

4月26日に開かれた臨時議会において、正副議長の改選を行いました。  
それぞれ投票により、議長に西藤努議員が選任、副議長に田中三江議員が再任されました。  
また、平成27年4月30日から平成29年4月29日までの任期となる、常任委員会や一部事務組合議会議員等も決定しました。  
今回の「議会だより」には、新しい議会構成及び議員のあいさつ文を掲載します。

### 議長就任のあいさつ

議長  
西藤 努



新緑の美しい季節を迎え、躍動感に満ちた里山の風景に心躍る日々なのか、町民皆様には益々ご清栄のことと、ご拝察申し上げます。

去る4月26日の第3回臨時議会に於いて、議員各位のご理解を賜り、不肖私が議長に就任いたしました。身に余る光栄でありますと同時に、その職責の重大さを痛感し身の引き締まる思いでございます。

さて、地域主権・地方創生が叫ばれて久しいなか、地方を取り巻く環境は人口減少、高齢化が進み、依然として厳しい状況にあります。立科町人口ビジョン、立科町総合戦略を着実に進め、自然豊かで人情あふれた環境での子供達の健やかな成長を育み、すべての方々が笑顔で安心して普段の暮らしをより大切にしていけることが元氣のもとであると思っております。

町民皆さまの代表としての議決機関である議会は、その環境を整えるため、町の施策をきちんとチェックし、一定の緊張関係を保ち、真摯な議論を尽くし、町民皆さまにとって有効な施策となるよう全力で取り組み、その使命を果す所存であります。  
今後の議会活動に、皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。議長就任のごあいさつといたします。

副議長

田中 三江



風薫る新緑の季節となりました。  
去る4月26日の臨時議会に於いて副議長に再任され、責任の重さを痛感いたしております。

憲法・地方自治法が施行70年、人口減少は大きな課題であります。当町の年少割合も10・4%となり、若い世代・高齢者皆様の住民福祉の向上、地域発展に向け努力をして参ります。

前回議会の予算一部修正はチェック機関として町民益・公平性・財政等を考慮しての行動でしたが、今後は自立堅持を掲げる町長のもと、立科町公共施設等総合管理計画も策定され、人口減少・財政状況などから、今後の公共施設の老朽化対策など課題は山積しておりますが、今後2年間「ひとり一人の夢や想いが活かされ、元気で輝く町づくりのために」町民皆様のご意見を伺い、行政との意見交換など、より良い町づくり・開かれた議会に向け全力を尽くします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いを申し上げます。



# 議会構成

議長 西藤 努  
副議長 田中 三江

## 常任委員会

◎総務経済常任委員会  
総務課・企画課・農林課・観光商工課・会計室及び議会事務局の所管する事項に関する事務の調査及び議案・請願・陳情等の審査をします。

委員長 森本 信明  
副委員長 今井 清  
委員 瀧澤 壽美雄  
委員 土屋 春江  
委員 森澤 文王  
委員 今井 英昭

◎議会運営委員会  
議会の運営について、調査・検討をします。

委員長 土屋 春江  
副委員長 村松 浩喜  
委員 森本 信明  
委員 榎本 真弓

## 一部事務組合

◎佐久広域連合

議員 西藤 努  
議員 田中 三江

◎北佐久郡老人福祉施設組合

議員 西藤 努  
議員 榎本 真弓

◎川西保健衛生施設組合  
議員 榎本 真弓  
議員 村松 浩喜  
議員 両角 正芳  
議員 村田 桂子

◎川西保健衛生組合議長・副議長指名推薦選人  
榎本 真弓  
◎川西保健衛生施設組合議会運営委員  
榎本 真弓

◎立科町土地開発公社  
理事  
西藤 努

◎佐久市・北佐久郡環境施設組合  
議員 榎本 真弓  
議員 両角 正芳

## 団体・協議会委員等

◎議会だより編集委員会  
委員長 森澤 文王  
副委員長 今井 英昭  
委員 田中 三江  
委員 両角 正芳  
委員 村田 桂子  
委員 今井 清

◎立科町土地開発公社  
監事  
村田 桂子  
今井 清

## 消防委員

◎白樺湖下水道組合監査委員  
田中 三江

村松 浩喜  
両角 正芳  
今井 清

今井 英昭  
(議席一番)

任期前半は、社会文教建設常任委員会に所属し、身近な生活、たてしな教育、将来を見据えた建設行政等について審査・調査をしてきました。また、議会運営委員会では副委員長として、議会改革の一つである「立科町議会運営基準」の策定に向けて取り組んできました。立場は変わりますが、議会へのICTの導入等、スマートな政治・議会(議会改革)を推し進めるための活動を引き続き邁進していきます。

そして後半の2年間所属することになる総務経済常任委員会では、特に次のキーワードに着目したいと思います。自立を選出した町が進む行政、発展産業の一つである農林事業、索道を含めた観光、自主財源に繋がる商工、立科版地方創生事業等について審査・調査していきます。

この他に、補助金等によらない「子育てしやすい町づくり」例えば、保育園の受入れ態勢、又「若者が住みやすい町づくり」例えば、生活の合理化、古き慣習の今後の在り方等、身近な施策研究にも力を入れて参ります。

森澤 文王  
(議席二番)



この度の議会構成改選により、総務経済常任委員会の所属となりました。観光・農業・移住等の政策に深く係る委員会なので、これまでの社会文教建設常任委員会で学んできた事、反省を活かし、

立科町の活性化のために今まで以上に調査・研究を広く深く行つて参りたいと思いますので、よろしく願ひいたします。

そして、議会だより編集委員会におきましては、委員長の大役を務めさせて頂く事になりました。これまで副委員長として議会だよりの編集に取組んで参りましたが、これからは委員長として、更なる努力をさせて頂きます。見やすく分かりやすい紙面、町民の皆様に議会を身近に感じてもらえる議会だよりを目指して参りますので、こちらでもよろしく願ひいたします。

今井 清

(議席三番)



町民の皆様には日頃から暖かいご支援をいただきまして心より感謝申し上げます。

これからの2年間は、総務経済副委員長として、全力で活動したいと思っています。私はいつも「立科町を元気に」、

「町民が生き生きとして活気あふれる町」を目指しています。人口減少と高齢化の厳しい現実日本全国どこでも同じ問題に直面しています。しかし、立科町にはいつも暖かい町民の皆様が常に見守ってくださっています。立科町が誇れるものはたくさんありますが、一番は人ではないでしょうか。人と人をつなぎ、地域をつなぎ、町全体がつながれば、小さな自治体でも未来はあるのではないのでしょうか。これからも「立科町に住みたい」と思える町づくりに向けて精進したいと思っています。

皆様とともに立科町の未来について語り合い、前進するためにご支援、ご協力をよろしく願ひいたします。

村田 桂子  
(議席四番)



皆さんの大きなご支援で議員に押し上げて頂き、総務経済常任委員会委員として駆け抜けた2年間でした。立科町の素晴らしい自然や伝統文化に触れながら、そしてなによりも住民の皆さんの【自分たちでできること】は自分たちで」という自立の気風や協力する姿、知恵と工夫を重ねて農業や暮らしに取り組み姿に感動する毎日でした。日々の暮らしの中でも、お祭り、落語会やコンサートなど様々な行事に取り組み、集落をお花で飾り美しく保っている皆さんのありように心から「立科町はいいところだな」と感じております。

住民の皆さんとお話する中で、課題も見えてまいりました。医療やお買い物、高校生などの通学費と交通問題、農業の跡継ぎの問題などは深刻です。単に立科町だけではなく、日本の農村社会の抱える共通の悩みです。国政の転換も含め、これからの未来を一緒に考えていかれたらと思っております。

両角 正芳  
(議席五番)



新緑が映える季節を迎え、町民皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

移住定住策や子育て支援策は講じているものの人口減少は避けられない情勢下にあつて、コンパクトでも活気に満ちた町それには、立科町独自の開発・販売や住みやす

村松 浩喜  
(議席六番)



2年前の「議会だより特集号」で、私は「行政に対するチェックを怠らず、効果的な提案をいたします」と述べました。その約束を果たすべく、チェックについては、各種事業の進捗状況を確認することはもちろん、町側から提出された事業案を厳しく審査することを心掛けました。町民の皆さまからお預かりしている現金や町有財産を大切に、効果的に運用しなければならぬからです。特に昨年度は、町側からの提案を議会が修正するという事態が2度発生しましたが、前述した責任感に基づいた判断の結果です。また、私からの提案については、様々なことを一般質問等で申し上げました。これにより、実現したものはいくつもあります。

常任委員会の所属は、任期前半の2年間とは異なり、社会文教建設になりました。議会運営委員会の副委員長も務めます。後半の2年間も引き続き、立



科町の発展に寄与するよう、一生懸命取り組みますので、皆様のご意見・ご要望等をお聞かせいただければ幸いです。

榎本 真弓

(議席七番)



この度の委員会構成により、社会文教建設常任委員長に任じられました。新体制の中、議会改革をさらに推進し、委員会において政策提言を行う活発な活動を目指して参りたいと思います。

議員の職責は、「具体的な政策の最終決定」と「行政運営の批判と監視」を完全に達成できるよう議会の一員として懸命に努力することであろう。(議員必携より)

立科町自立堅持は町民の声であると、真摯に受けとめています。立科町依存財源6割(平成27年度決算)、国からの地方交付税は将来不確定です。課題山積の中、何をどう行っていくのか、的確な決断が求められます。

議決は、重大な任務であると肝に銘じています。そのために必要な知識を習得し、幅広く情報を取り込み、町全体の立場に立って判断します。全定例会で行ってきた一般質問も、事業提案・行政質問など今後も積極的にまいります。後半2年間、議員活動をより一層邁進して参ります。



森本 信明

(議席八番)



野山の樹木が芽吹き新緑の春。そして水田の水田が輝き、りんごが花咲く春。今年も立科の特産物が豊作であることを願う春です。

議員任期4年のうち2年が過ぎました。この間「社会文教建設常任委員会」に所属をし、第5次振興計画・総合戦略等から、委員会所管課の施策(循環型社会の推進・新クリーセンターの整備、立科つ子教育・子育て支援の充実、社会福祉の充実、日常生活の安全確保等)の推進を図ってきました。

今回、議会構成の改選により、「総務経済常任委員会」に所属替えをし、所管課が取組む施策(町の魅力が活きた農業・農村づくり、観光振興、定住・移住の促進、計画・効率的な行政運営等)の推進・監視・提言を行っていきます。

今後も引き続き、「立科町が自立を堅持し、住み良い立科町」のために議会の使命、常任委員会の権限(調査権・審査権)を意識し、議員の職責を全うしていきます。

土屋 春江

(議席九番)



任期満了となりました。

風薫るさわやかな季節を迎え、町民皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成27年5月7日の臨時議会で議員各位からのご推挙により議長に就いてから、2年が経過しこの4月末をもちまして任期満了となりました。

この間、議長として、佐久広域連合組合議会・近隣市町議会・諸団体の会議・行事等出席させていただきました。また、北佐久郡老人福祉施設組合「佐久良荘」議長もさせていただく中、責務を感じ勤めてまいりました。

町民の皆様にはご指導ご協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

任期後半は、議会運営委員長・総務経済委員として自立する自治体づくり、町民に見える議会改革をしていきます。

そして、議員の役割、地域住民の代弁者として、併せて町の議事機関、意思決定機関として重要な使命のもと、その職責を全うすべく議員として努力してまいります。

どうぞご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。

瀧澤 壽美雄

(議席十番)



地方分権が進む中、少しずつかもしれませんが、自らの存在意義を問い直し、本来あるべき地方議会への脱皮を図り始めています。

立科町議会が地方議会改革を引っ張っていくよう、全力を尽くして取り組んでいかなければなりません。

これからは町民の多様な声を代表する議員が、自ら提案を提案し、自治体運営全般について討議し、地域の意思決定を行っていく場をつくり出していきたいと考えています。

議会が本来求められている、行政のチェック機能の向上と町民に分かりやすい議会を目指し後半戦頑張りしたいと思います。

## 「町の未来を語る会」ご意見・ご要望等の回答

昨年10月24日から11月1日にかけて16会場で開催いたしました地域懇談会「町の未来を語る会」では、169名の皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。いただいたご意見・ご要望について、町行政に関わるものについては、町側に回答を求めてまいりましたが、「一つひとつお答えすべきと検討してまいりましたが、ご質問の背景やニュアンスが判らない中での回答により、誤解や行き違いが生じ、今後の行政運営に支障が出るのが懸念されました。この度いただいたご意見・ご要望に対しましては、行政として重く受け止め、今後議会の皆様と、これらの課題解決について真摯に協議してまいりたいと考えております。」との回答でありました。なお、議会に関するご意見・ご要望について、立科町議会としての考えを次の通りまとめました。

### 1. 9月定例会において、修正動議をした理由は。

**A** 9月定例会で出された補正予算については、次の4事業について修正案を提出し賛成多数で可決しました。農ん喜村の道の駅、蓼科牧場のクロスカントリーコース、動く歩道の設置、電気自動車急速充電施設の4事業は、9月補正であるにもかかわらず、具体的な計画がなされていないこと、また事業効果が明確に示されないこと、充電施設においては近隣の設置状況から不要との判断をしました。詳細は、「議会だより」No.146号をご参照ください。

### 2. 索道事業推進室長(仮称)の採用については議員も厳しくチェックしてほしい。

**A** 観光事業推進室長は、索道事業の経営改善を中心とし、町全体の観光事業推進を図るため公募により募集し、理事者による面接を経て、採用されました。索道事業の改善は急務であり、議会として注視していきます。

### 3. 現状の議員定数と議員報酬は適正か。

**A** 議会は、行政の政策を最終決定し、行政運営の監視の役割を担っています。このためには、町民の代表として、様々な識見を持つ一定数の議員が必要であり、現在の議員定数は妥当であると考えます。また、近年、議員のなり手不足や報酬について課題にもなっています。当議会では、町村議会改革のシンポジウム等に参加し研修を重ねています。

### 4. 県議の選挙区の区割りの動きは。

**A** 県議の選挙区割等については、現在、県議会で特別委員会を設置し検討されているようです。浅麓(小諸、御代田、軽井沢)地区では合区とし「1人区を2人区へ」の要望が出されています。当議会では現状の佐久市・北佐久郡区を維持すべきと考えています。

### 5. 移住政策については。

**A** 移住政策については、体験住宅や移住のための住宅建設費補助、また地域おこし協力隊員を採用するなど、第5次振興計画・立科町総合戦略に基づき移住促進に努めています。当議会においてもこれまで、幾度となく一般質問等で政策論議をしてきています。

### 6. TPPについては。

**A** 国の政策ではありますが、重要な課題であり、今後も注視していきたいと考えています。



## 7. 未来を語る会について

- ①若い人が集まれるような会にしてもらいたい。②分かりやすい資料を用意して欲しい。  
③出された意見は公開してもらいたい。

**A** 「未来を語る会」には多くの皆さんにご参加いただきありがとうございました。いただいたご意見を参考にし、実のある地域懇談会を開催していきたいと考えています。また、いただいたご意見等については、「議会だより、HP」に掲載してまいりますのでご覧ください。

## 8. 一般質問について

- ①「検討する」という回答の対応は。②生放送をしてもらいたい。

**A** 一般質問の中で「検討する」という回答はよくあることですが、それぞれの議員が追跡質問を行なう、直接担当課で聞く、など対応をしています。また、議会の生放送については、行政側とともに検討していく課題であると考えています。

## 9. 「ハートフルケアたてしな」の状況確認は。

**A** 「ハートフルケアたてしな」は、社会福祉法人であり議会が直接介入することはできません。法人と町で組織している「ハートフルケアたてしな事業推進協議会」において運営状況を定期的に協議をしています。町当局に随時、その説明を求めています。

## 10. 共同電算化についての検証は。

**A** 共同電算化については、長野県自治振興組合で、参加町村の担当課長会議を開催し、検証を進めており、その経緯等、随時報告を求めています。

## 11. 増えている遊休荒廃地については。

**A** 行政・農業委員会を中心に対策に取り組んでおり、現状も報告がされています。また、議会として、先進的な取り組みをしている町内外の団体へ現地調査を行っています。

## 12. 町の活性化については。

**A** 第5次振興計画及び総合戦略に沿って検証をしつつ進めています。また、一般質問等を通して提案しています。

## 13. 権現の湯の町民利用が少ないと聞いている。議員の率先利用を。

**A** 町民福祉施設であります。町外の利用者が概ね7割であり、町民利用者の少ないことは承知しています。今後の施設維持・改善を図るためにも利用推進をしていかなければならないと考えています。

## 編集後記

ここまでの2年という月日を振り返りますと、あっという間に過ぎたようであり、審議してきたことを思い返せば、とても長い時間であったようにも感じられます。

私達議員に残された任期は、過ぎた時間と同じく2年です。折り返しとも言えますが、今まで以上に力が入った議員活動となるように気を引き締めて、町のために働かせて頂きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

森澤 文王